



平成29年5月13日総会議事次第

一般社団法人 国際P2M学会

日時：2017年5月13日土曜日
13:10～13:40

場所：東京工業大学田町キャンパス・イノベーションセンター（CIC）

議事

- | | |
|-------|-----------------------|
| 第1号議案 | 議長と総会開催要件の確認 |
| 第2号議案 | 学会会員数の報告 |
| 第3号議案 | 平成28年度学会活動報告 |
| 第4号議案 | 平成28年度事業収支報告 |
| 第5号議案 | 平成29年度基本方針と活動計画 |
| 第6号議案 | 平成29年度事業収支計画 |
| 第7号議案 | 平成29年度人事交代 その他報告事項 |

以上

第1号議案

平成29年5月13日

議長と総会開催要件の確認

1 開催と議長

当学会（一般社団法人）の定款では「社員総会」（4章）について、年に1回4月か5月に開催する他、必要がある場合に開催する（13条）、「総会の議長は、代表理事（会長）がこれに当たる」（16条）との規定がある。これにより社員総会を開催する。

2 総会成立要件

成立要件は「社員総会の決議は、法令又はこの定款に別段の定めがある場合を除き、総社員（会員）の議決権の10分の1以上を有する社員が出席し、出席した当該社員の議決権の過半数をもって行う」（18条）と規定されている。以下成立要件を確認する。

| | |
|------|------|
| 正会員数 | 143名 |
| 出席者数 | 41名 |
| 委任状 | 19名 |

以上の数を確認の結果、総会の成立を認めることにする。

3 総会の権限

社員総会は、次の事項について決議する（12条）とある。関連議案があるので、ご参照をお願いします。

- （1）社員及び会員の除名
- （2）理事及び監事の選任又は解任
- （3）理事及び監事の報酬等の額
- （4）貸借対照表及び損益計算書ならびにこれらの付属明細書の承認
- （5）定款の変更
- （6）解散及び残余財産の処分
- （7）その他社員総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

以上

第2号議案

平成29年5月13日

学会会員数の報告

定款第5条会員の規定による分類に従い、平成29年3月末の学会会員数を報告する。

| | | | |
|-----------|-----|---|-----------------------------------|
| ① 正会員 | 143 | 名 | |
| ② 法人会員（注） | 6 | 社 | |
| ③ 学生会員 | 14 | 名 | |
| ④ 名誉会員 | 3 | 名 | 学会に貢献した外国人研究者（設立総会にて承認）ならびに学会名誉会長 |

*注. 法人会員として年間1口5万円を会費として支払い、5名の会員権利を取得する制度である。

以上

平成29年5月13日

「平成28年度学会活動報告」

1. 定期研究発表大会

- ① 平成28年4月16日土曜日、春季研究発表大会、
「競争力強化につなげるP2M活用」
基調講演：安永裕幸 国立研究開発法人 産業技術総合研究所理事
演題：「産学官連携によるイノベーション創出とP2M」
パネル：「P2Mを活用した産学官連携のあり方を探る」
ファシリテータ：亀山 秀雄東京農工大名誉教授
パネリスト：井口一氏、谷口邦彦氏、新井信昭氏
研究発表：4トラック、14名
東京工業大学CIC田町キャンパス
- ② 平成28年10月1日土曜日、秋季研究発表大会、
「P2Mとソーシャル・イノベーション」
基調講演：加藤哲夫氏TKO代表「挑戦するマネジメント」
パネル：「イノベーションのためのプログラム・マネジメントはどうあるべきか」
モデレータ：亀山秀雄 東京農工大名誉教授
司会大会実行委員長：和田義明 キュウピー株式会社常務取締役
パネリスト：加藤哲夫氏、清田 守氏、湯野川恵美氏、和田義明氏
研究発表：4トラック 16名
東京農工大学小金井キャンパス

2. アジアを意識した国際化の推進

- ①平成28年11月13日―15日ASCON大会を化学工学会と共催(参加者225名)
第4回国際大会に位置づけP2Mセッションに14名が発表した。
- ②平成29年3月24日フィリピン大学 (University of Philippines) 共催
第5回国際大会に位置づけUP Cebu Campusにて開催、日本より18名が参加
UP Development Dean Elvira Zamora, UP Cebu Chancellor Liza D. Corro
などが参加した。発表件数は16件

3. 学術登録機関への対応、賛助金、実績

- ① 国立情報学研究センターと科学技術振興機構 (JST) のライブラリーの統合と学術論文登録の一本化に対応 (J-STAGE)
- ② 春秋2回の予稿集、学会誌の発行 (電子ジャーナルの発行開始)

- ③ 行政・学術機関のグローバル化に対応して第4回、5回国際大会の予稿集、国際ジャーナルを発刊
- ④ F I S T (Foundation for Interaction in Science and Technology, Japan) キューピー株式会社、株式会社ヒューマンシステムからの賛助金により国際大会が実現できここに感謝する。

4. 学会活性化事業

① 学会マガジンの発刊

会員サービスを向上するために、亀山秀雄理事、中山会員が中心となり、年間2回の学会活動、会員動向、論説、教員公募情報、研究動向、出版などを配信した。

② プレゼン表彰制度の実施

本年度より若手研究者の育成に向けて、発表トラックに評価員を配置して学会における優れたプレゼンを大会当日に表彰する制度を開始した。(発表奨励賞)

③ 学会功績賞

理事会により発議され、学会発展に顕著な実績に対して学会功績賞の表彰を行った。

以上

平成28年度事業収支報告

【平成28年度事業収支計画と実績報告】

1 平成28年度の事業収支報告について

当学会会計責任者が作成した「国際P2M学会2016年度決算書」(1)損益計算書 (2)貸借対照表を本議案に「別紙添付」している。本決算書は、学会監事の監査により、承認をいただいている。以下に年度計画と実績の差異を説明するので、ご審議の上、ご承認をお願いする。

昨年度に引き続き財政基盤の強化に向けた諸施策を実施した。

例えば、学会誌の発行を電子化することによる印刷費削減(学会マガジン発刊の原資となった)、効率運営による学会運営費の削減、大会収支の改善などである。

この結果、「繰越金」の増額を確保することができた。

1. 1 会員数の推移説明

表1は、事業収入のベースとなる会員数の計画と実績の差異の報告です。会員数の増加は多くを望めない厳しい状況にあるが 増強に努めて参ります。

表1 会員数の推移

| 会員 | 27年度末実績 | 28年度計画A | 28年度末実績B | 差異 C=B-A |
|------|---------|---------|----------|----------|
| 正会員 | 140 | 145 | 143 | -2 |
| 学生会員 | 16 | 20 | 14 | -6 |
| 法人会員 | 25 (5社) | 30(6社) | 30(6社) | 0 |

1. 2 会員数に関するコメント

①正会員数

既に公開された論文(英文・和文)ものから推薦論文を選び会員増強に向けた資料作りを進める等により会員増強に注力して行く。

②学生会員数

協力いただいている大学等に働きかけ29年度は20名程度に増加させる必要がある。

③法人会員数

厳しい状況であるが財務基盤安定のために、29年度は更なる勧誘努力が必要になる。

1. 3 事業収入の説明

表2は、事業収入の計画と実績の差異の報告である。平成28年度の事業収入は、厳しい環境が続いたものの年会費増、秋季大会増、国際大会賛助金、前払金(年会費)があったので計画に対して大幅な増収となった。

表2 平成28年度事業収入計画と実績

(単位 円)

| 事業収入項目 | 平成28年度 計画 | 平成28年度 実績 | 差異 |
|----------------|--------------|--------------|-----------|
| | A | B | C=B-A |
| 1. 年会費 | 1,640,000 | 1,793,000 | 153,000 |
| 2. 春季大会開催事業 | 550,000 | 535,000 | -15,000 |
| 3. 秋季大会開催事業 | 550,000 | 744,000 | 194,000 |
| 4. 学会誌発行事業 | 750,000 | 810,000 | 60,000 |
| 5. 資格研修・試験事業 a | 150,000 | 0 | -150,000 |
| 6. 新刊書発行事業 | 12,000 | 0 | -12,000 |
| 7. 国際大会 | 0 | 2,190,000 | 2,190,000 |
| 8. 前払金・利息 b | 0 | 680,009 | 680,009 |
| 9. 次年度分論文掲載料 | 0 | 120,000 | 120,000 |
| 10. 前年度繰越金 | 1,839,032 | 1,839,032 | 0 |
| 収入合計 | 5,491,032 | 8,711,041 | 3,220,009 |

a：本年の資格試験は1回の実施予定のところ開催できず。

b：次年度前払金（会費・大会参加費）と受取利息。

2. 事業支出の部

2. 1 事業支出の説明

表3は、平成28年度の事業支出の計画と実績の差異の報告である。28年度は、昨年引き続き事務局運営費の効率化・コストダウンを進め、また大会の支出を抑えるなどの効果がみられたが、年初計画になかった国際大会費（UPセブ）の支出があったため計画値に対して120万円強の増になった。

表3 平成28年度事業支出計画と実績

(単位 円)

| 支出の部 | 28年度計画 | 28年度実績 | 増減 |
|---------------|-----------|-----------|-----------|
| | A | B | C= B-A |
| 1. 学会組織運営費 a | 850,000 | 515,573 | -334,427 |
| 2. 業務委託費 b | 500,000 | 475,541 | -24,459 |
| 3. 春季大会開催費 | 600,000 | 463,300 | -136,700 |
| 4. 秋季大会開催費 | 600,000 | 520,868 | -79,132 |
| 5. 学会誌・マガジン c | 600,000 | 715,574 | 115,574 |
| 6. 資格制度業務費 | 150,000 | 0 | -150,000 |
| 7. 国際大会費 d | 0 | 1,984,388 | 1,984,388 |
| 8. 表彰制度関係費 | 100,000 | 25,188 | -74,812 |
| 9. 法人都民税他 | 100,000 | 70,000 | -30,000 |
| 10. 前払金 e. | 0 | 45,212 | 45,212 |
| 11. 予備・引当 | 100,000 | 0 | -100,000 |
| 支出合計 | 3,600,000 | 4,815,644 | 1,215,644 |

a. 組織運営費とは、理事会、評議員会、事務局運営に関する資料作成、会議室賃貸、印刷費、交通費、会議費、備品購入、郵送費などの費目の総計である。

- b. 業務委託費とは、国際文献社アカデミーセンターに委託契約している学会事務所の設置、会員管理、年間2回の会費請求、役員改選などの連絡業務である。
- c. 昨年度発行の学会誌の印刷代（29年度からは電子化）が含まれている。
- d. 第5回国際大会は、フィリピン大学と共催によりセブキャンパスで開催した。
- e. 29年春季大会会場費を会場の規定により事前に納めた。

3. 平成28年度の総合収支報告

表4は平成28年度の総合収支の結果である。お陰さまで、皆様の絶大なご支援により、「繰越金」を年度計画より120万円強増額することができた。これは、組織運営費の削減、大会収支の改善、学会誌の電子化などが貢献している。

表4 総合収支の部 (単位 円)

| | 28年度計画 | 28年度実績 | 差異 |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| | A | B | C= B-A |
| 1. 収入の部 | 5,491,032 | 8,711,041 | 3,220,009 |
| 2. 支出の部 | 3,600,000 | 4,815,644 | 1,215,644 |
| 3. 総合収支 a. | 1,891,032 | 3,895,397 | 2,004,365 |
| 4. 繰越金 | 1,891,032 | 3,140,609 | 1,249,577 |

a. 実績には80万円の次年度収入(前受金)が含まれている。

「前受金(流動負債)」は、翌年度会計で「収入」に反映する。

会員のご支援に感謝し、引き続き一層のご支援をお願いする。

以上

国際P2M学会 2016年度 決算報告書
 (但し、2016年4月1日～3月31日まで)
 (1) 損益計算書

報告版

2016.4.1～2017.3.31

(単位:円)

| 収 入 | | 支 出 | |
|------------------|-----------|--------------------|-----------|
| 前期繰越 | 1,839,032 | 事務運営費 | 515,573 |
| 年会費・入会金 | 1,793,000 | 業務委託費(国際文献社) | 475,541 |
| 春季大会 | 395,000 | 春季大会 | 335,698 |
| 懇親会費(春季大会) | 140,000 | 懇親会費(春季大会) | 127,602 |
| 秋季大会 | 572,000 | 秋季大会 | 390,728 |
| 懇親会費(秋季大会) | 172,000 | 懇親会費(秋季大会) | 130,140 |
| 論文掲載料 | 810,000 | 論文(査読・編集等)マガジン発行費用 | 715,574 |
| 資格試験 受験料・更新料 | 0 | 資格試験実施費用 | 0 |
| 図書 協賛金・売上金 | 0 | 図書販売費・送料 | 0 |
| 国際大会 | 2,190,000 | 国際大会(フィリピン) | 1,984,388 |
| | | 表彰制度 | 25,188 |
| 前払い 年会費・入会金 | 652,000 | 法人都民税 | 70,000 |
| 前払い 次年度 春季大会参加費 | 20,000 | | |
| 前払い 次年度 春季大会懇親会費 | 8,000 | 次年度 春季大会(会場費) | 45,212 |
| 次年度分 論文掲載料 | 120,000 | 小 計 | 4,815,644 |
| 利息 | 9 | 総合収支 | 3,895,397 |
| 合 計 | 8,711,041 | 合 計 | 8,711,041 |

(2) 貸借対照表

| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
|-----------------|-----------|----------------|-----------|
| I 資産の部 | | II 負債の部 | |
| 1. 流動資産 | | 1. 流動負債 | |
| 現金預金 | 3,895,397 | 年会費前受金 | 652,000 |
| 普通預金(SMBC飯田橋支店) | 1,615,270 | 春季大会 参加費前受金 | 20,000 |
| 郵便振替預金(文京関口一局) | 2,280,127 | 春季大会 懇親会費前受金 | 8,000 |
| 現金 | 0 | 論文掲載料前受金 | 120,000 |
| | | | |
| 春季大会(会場費)前渡金 | 45,212 | | |
| | | 流動負債合計 | 800,000 |
| | | | |
| 流動資産合計 | 3,940,609 | 1. 固定負債 | |
| | | 固定負債合計 | 0 |
| | | | |
| | | 負債合計 | 800,000 |
| | | | |
| 1. 固定資産 | | III 正味財産の部 | |
| 固定資産合計 | 0 | 前期繰越正味財産 | 1,839,032 |
| | | 当期正味財産増加額(減少額) | 1,301,577 |
| | | 正味財産合計(正味負債) | 3,140,609 |
| | | | |
| 資産合計 | 3,940,609 | 負債及び正味財産合計 | 3,940,609 |

監査報告書

国際P2M学会の2016年度（平成28年4月1日より平成29年3月31日まで）の決算報告書を詳細監査しました結果、すべて適正に処理されており、正確であることを確認しましたので、本書をもって報告いたします。

平成29年4月5日

監事 白井久美子 印



平成29年5月13日

「平成29年度基本方針と活動計画」

1. 基本方針と前提について

29年度の基本方針については、昨年度28年には思い切った緊縮財政により事業収支を改善する成果を得たが、29年度も予断を許さないで、出費を最小限として基本路線を踏襲する。

基本路線は、公益を追求し市場を創造するプログラム・マネジメント研究を持続する。学会はその適用が、社会人と研究者に常に魅力ある発信が必要である。

- ①本年度は、前年度のマガジン発信、表彰制度に加えて、特別研究会、英文・和文論文編集に注力する。
- ②学会は本年度で設立後13年目を迎え2020年（中期）と2025年（長期）の「あるべき姿」を描き、前年度の成果が次年度の飛躍につながり、社会的なインパクトを産み出せる活動計画を推進する。

2. 平成29年度の予算対象と活動計画

- ①定常活動にマガジン発信を予算化する。本年より年4回発行に増やす予定。
- ②学会の基盤構築には、関東地区に定常的な複数の大学支持母体への接近が不可欠である。
そのためには情報収集とマーケティング活動に交通費等の経費を手当する。
- ③表彰制度の拡充の予算化を図る。
優秀論文賞などの実現を進める。
感謝状制度の予算化を図る。財務再建、編集、会員管理などで顕著な功績に対する感謝を表す。
- ④特別研究会を充足し、公益、市場のシステムから、個人の幸福、希望、意欲を産み出せる「第3の価値を探る仕組みづくり」の場を創る。
- ⑤すでに発刊された推薦論文を選び英文と和文の研究・研修あるいは会員増強のための資料作成にとりかかる。

3. 平成29年度秋季研究発表大会 開催予定

開催日：2017年（平成29年）10月14日（土）

開催場所：青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル（14号館）

大会テーマ：（仮題）インバウンド産業雇用創生に向けたプロジェクト・プログラム・マネジメント

実行委員長：青山学院大学 経営学部 教授 玉木欽也

副実行委員長：国際P2M学会監事 白井久美子

3. ロジックモデルによる学会の「あるべき姿」（短期・長期）について

亀山企画委員長が作成した「国際P2M学会ロジックモデル（2017年版）」をここに添付し、説明する。

以上

平成29年度事業収支計画

【平成29年度学会活動の事業収支計画】

平成29年度の事業期間は、29年4月1日から～30年3月31日となる。
下記を提案するので、よろしくご審議とご承認をお願いする。

1. 会員予測と前提

前年度会員数を基礎に本年度の努力目標を下記に設定する。よろしく会員のご協力とご尽力をお願いする。

表1 29年度会員予測

| 会員の構成 | 29年3月末実績 | 30年3月末会員予測 |
|-------|----------|------------|
| 正会員 | 143名 | 145名 |
| 学生会員 | 14名 | 20名 |
| 法人会員 | 30名(6社) | 30名(6社) |
| 合計 | 187名 | 195名 |

* 正会員、学生会員はそれぞれ2名、6名の純増を見込む。

** 法人会員については、1社増に向けて努力する。

2. 29年度事業収支計画

会員数ならびに春季・秋季大会参加者数の予測などを前提に事業収入を計画し前期繰越金を参入する。

表2がその内容です。

表2 平成29年度の事業収入計画 (単位 円)

| 事業収入項目 | 収入計画 |
|------------------|-----------|
| 1. 年会費 | 1,720,000 |
| 2. 春季大会開催事業(注1) | 500,000 |
| 3. 秋季大会開催事業(注1) | 500,000 |
| 4. 学会誌発行事業(注2) | 570,000 |
| 6. 資格研修・試験事業(注3) | 150,000 |
| 7. 前年度繰越金(注4) | 3,140,609 |
| 収入の部 合計(A) | 6,580,609 |

注1：大会参加者数を春季50人、秋季50人として試算した。

注2：学会誌掲載論文数を春・秋大会は15編、国際大会は4編として計上した。

注3：P2Mプロジェクトマネジャーの研修を年1回、試験を1回として普及する。

注4：事務運営の効率化などを積み重ねた結果である。

表3は、本年度の支出計画である。一般社団法人移行から6年目を迎えて今年度活動計画の注力事業の予算を反映している。注釈説明などもご参照ください。単年度黒字を確保するために厳しい予算計画となっている。

表3平成29年度支出計画 (単位 円)

| 事業支出項目 | 予算計画 |
|--------------------|-----------|
| 1. 学会組織運営費 注1 | 750,000 |
| 2. 業務委託経費 注2 | 600,000 |
| 3. 春季大会開催費 注3 | 550,000 |
| 4. 秋季大会開催費(注3) | 600,000 |
| 5. 学会誌・マガジン発行費用 注4 | 480,000 |
| 6. 資格制度業務費 注5 | 150,000 |
| 7. 表彰制度関係費 注6 | 200,000 |
| 8. 研究・研修・普及資料作成費注7 | 500,000 |
| 9. 一般社団 税 注8 | 100,000 |
| 10. 予備・引当 注9 | 500,000 |
| 支出の部 合計(B) | 4,430,000 |

注1. 理事会、評議員会、事務局運営に関する資料作成、会議室賃貸、印刷費、交通費、会議費、備品購入、郵送費などの費目の総計である。次期大会などの準備活動を含めたものである。

注2. 国際文献社アカデミーセンターに委託契約している学会事務所の設置、会員管理、年間2回の会費請求、役員改選、などの連絡業務である。

注3. 大会開催関連費である。予稿集編集・電子保持、要旨印刷、講演・パネル謝礼、準備調整費、懇親会補助などである。

注4. 年2回発行する論文査読、編集、電子ジャーナル(J-STAGE登録)、マガジン発行諸費用、関連する会議費などの費用である。

注5. 資格制度実験実施に要する教材、交通費、審査日当、賃借料など最小費用を計上した。

注6. 表彰状作成や記念品などの費用である。

注7. 研究・研修及び普及に向けた資料作成費用、ならびに関連図書の購入などを見込む

注8. 一般社団に関わる法務局や東京都に関する費用や税を指す。

注9. 第6回国際大会を想定するが開催が流動的なため予備費として計上、事務所運営費(75万円)大会参加者による変動(115万円)を5%見込み引当準備する。

本年度の事業収支は、正会員、法人会員、コスト変動などの前提はあるが、単年度収支で黒字維持に注力する。

表4 平成29年度事業収支計画 (単位 円)

| 項目 | 金額 |
|------------|-----------|
| 収入計画(表2 A) | 6,580,609 |
| 支出計画(表3 B) | 4,430,000 |
| 総合収支(A-B) | 2,150,609 |

以上のご承認をお願いする。

第7号議案

平成29年度人事交代

平成29年5月13日

2年間の役員任期の満了に伴い、平成29年4月27日開催の理事会・評議員会合同会議にて 理事、評議員の互選による新体制案が審議され、総会に提示することが了承された。

この候補者を以下に提示するので、ご審議の上、ご承認をお願いする

「平成29年度における理事、監事、評議員の候補」

任期 平成29年5月13日～平成31年4月総会
(敬称省略)

| | | |
|-----|----------|-------|
| 会長 | 代表理事（再任） | 小原重信 |
| 副会長 | 理事（再任） | 亀山秀雄 |
| 副会長 | 理事（再任） | 山本秀男 |
| | 理事（再任） | 出口弘 |
| | 理事（再任） | 湯野川恵美 |
| | 理事（再任） | 綿木久雄 |
| | 監事（再任） | 白井久美子 |

| | | |
|--------|---------|------|
| 評議員会議長 | 評議員（再任） | 浅田孝幸 |
| | 評議員（再任） | 喜多一 |
| | 評議員（再任） | 谷口邦彦 |
| | 評議員（再任） | 西尾雅年 |
| | 評議員（再任） | 根本敏則 |
| | 評議員（再任） | 松井啓之 |
| | 評議員（再任） | 山根里香 |
| | 評議員（再任） | 吉川厚 |
| | 評議員（再任） | 武富為嗣 |
| | 評議員（再任） | 堀口正明 |

評議員（新任） 吉田直人
評議員（再任） 和田義明
評議員（再任） 新井信昭
評議員（再任） 久保裕史
評議員（再任） 田隈広紀
（退任：山本正毅）

「新しく就任する評議員候補の所属」 (敬称省略)

吉田直人 : 株式会社 日立製作所
電力ビジネスユニット CPMO
兼 プロジェクトマネジメントオフィス(PMO) 室長
兼 エネルギーソリューションビジネスユニット CPMO
兼 モノづくり戦略本部 PM・EPC基盤強化室 室長
(前任者は 山本正毅)

以上

平成 29 年 5 月 13 日

優秀論文賞の表彰

第 1 巻 1 号～第 10 巻 2 号（2006 年 12 月発行～2016 年 3 月発行）の学会誌掲載論文、合計 240 編を対象に 審査委員会（9 名）にて 推薦論文の抽出を行い、最終的には 19 編の候補論文の中から平成 29 年 4 月 27 日の理事会・評議員会に於いて審議の結果、下記の作品が優秀論文として選定されたので ここに表彰を行う。

優秀論文賞

学会誌 第 8 巻 2 号 掲載

論文名 「イノベーションプログラムのマネジメントに関する考察」

著者 「山本秀男」

以上